

原作：成田良悟 / TYPE-MOON  
漫画：森井しづき



Fate/strange Fake

フェイト/ストレンジ・フェイク

1

漫画：成田良悟 / TYPE-MOON  
漫画：森井しづき

TYPE-MOON BOOKS  
76A-01



ISBN978-4-89610-930-6

C0979 ¥1200E

本体価格1,200円+税

発行：TYPE-MOON

発売：メディアパル

TYPE-MOON BOOKS

# Fate/strange Fake

フェイト/ストレンジ・フェイク

あらゆる願いを叶える願望機「聖杯」を求め、魔術師たちが炎を召喚して競い合う争奪戦——聖杯戦争。  
日本の地で行われた第五次聖杯戦争の終結から数年、米国西部スノーフィールドの地で行われた次の戦い。

——それは偽りだらけの聖杯戦争。

偽りの台座に集まった魔術師と美少女達。

これが偽りの聖杯戦争である知りながら——彼らはそれでも、台座の上で戦い続ける。

真偽などは後序の彼方。聖杯ではなく——彼ら自身の信念を達すために。

その時、脇に満ちるのは偽りか、真実か。それとも——

成田良悟・奈須きのこが創んだ「Fate」新プロジェクトを森井しづきが完全コミック化!!

森井しづき

代表作

戦国アムリタ (野崎まど著 メディアワークス文庫)

金魚鉢ネロスコープ (電撃コミックス)

成田良悟

代表作

デュラララ!! (電撃文庫)

バックカーノ! (電撃文庫)

原作：成田良悟 / TYPE-MOON  
漫画：森井しづき

1

Original Planning  
Nasahito Kuroki / TYPE-MOON  
COMIC: Mori Shizuki

# Fatestrange Fake

フェイト/ストレンジ・フェイク

Fatestrange Fake

フェイト/ストレンジ・フェイク

1

Original Planning  
Nasahito Kuroki / TYPE-MOON  
COMIC: Mori Shizuki

漫画：成田良悟 / TYPE-MOON  
漫画：森井しづき



TYPE-MOON BOOKS

# Fatestrange Fake

フェイト/ストレンジ・フェイク



TYPE-MOON BOOKS

# Fate strange Fake

フェイト/ストレクタ フェイク



Original Planning  
Masa Kishino/TYTO MOON  
COMBO (ideell) (sakaki)

# Fate strange Fake

フ ェ イ ト / ス ト レ ン ジ ャ フ ェ イ ク



Original Planning  
Narita Ryohgo/TYPE-MOON

COMIC:Morii Siduki

## CONTENTS

プロローグ	005
ACT1 アーチャー	015
ACT2 バーサーカー	061
ACT3 アサシン	127
ACT4 キャスター	175
ACT5 ライダー	207
ACT6 ランサー	249
エピローグ	290





狭間



いわば  
混じり合った  
絵の具が  
集約することによって  
生み出された

黒い中心点



荒野の  
闇の中に  
浮かび上がる  
その街は

確かに  
「狭間」とも  
いうべき  
存在だった

An aerial, black and white photograph of a dense urban skyline, likely New York City. The image is split vertically down the middle. The left side shows a dense cluster of skyscrapers, with a prominent one in the upper left. The right side shows a similar cluster of buildings, but with a river or large body of water visible in the lower right corner. The entire image is overlaid with a pattern of small, bright, star-like sparkles, giving it a magical or fantastical appearance. The buildings are rendered in a stylized, almost geometric manner, with strong vertical lines and varying heights. The lighting creates deep shadows and bright highlights, emphasizing the three-dimensional nature of the structures.

アメリカ大陸西部

スノーフィールド





使い魔を  
一々放つよりも  
手軽になるとは

まったく  
嫌な時代に  
なったものだ



ファルデウス

そう  
思わないかね




そんなことより

本当に

それほど  
気を張らねば  
ならぬもの  
なのですかね？

その…





『聖杯戦争』とやらは？





ならば  
わかるだろう



如何に  
確率が低い  
話としても

聖杯と  
名のつくものが  
顕現する可能性が  
あると  
するならば――



子供の噂話の  
中だろうが



三流雑誌の  
デタラメな  
記事の中だろうが



我々は  
踏み込まざるを  
えない

なぜなら……

それは多くの  
魔術師の  
悲願でもあり

単なる  
通過点でも  
あるのだからな









くだらん



真似たろうが  
なんだろうが

結果さえ  
同じならば  
なんの問題もない

最初に  
噂を聞いたときは  
単なる  
風聞の類と  
笑っていたが

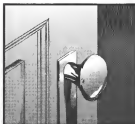


ランガルの  
手によって  
伝えられた一報は  
協会を揺るがし

その振動は  
多くの魔術師達を通じて  
彼の耳にも伝わった



彼は  
それなりに  
名の知れた  
魔術師の家系では  
あったが



その力は  
緩やかに  
下降の道を  
辿っており

現時点での当主である身として  
少なからずプレッシャーを  
感じていた



冗談ではない

マキリのようになるのは  
まっぴら御免だ

己の覚悟を示すために  
先のない息子は  
すでに間引いてきた

止める妻も  
始末した

繁栄をもたらさぬ  
女に未練はない

あんな女に生ませたからこそ  
素質のない息子が  
生まれたのだろう

だが  
あの女が今の自分の  
ランクで手に入る上限だ

さらに自分の位を上げるには  
この戦争に勝ち残るしかない

しかし……  
これが令呪か

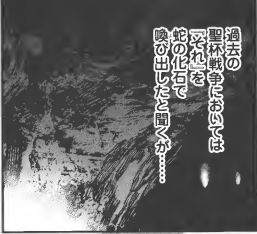
聞いていた  
ものとは  
少し違う紋様だな



だが  
これが宿った  
ということとは……







過去の  
聖杯戦争においては  
「それ」を  
蛇の化石で  
喚び出したと聞くんが……



この遺物ならば  
より確実に

「それ」を  
喚ぶことが  
できるだろう



時も満ちた

— 始めるとするか





パァァァァ

素に銀と鉄  
礎に石と  
契約の大公

降り立つ  
風には壁を

四方の門は閉じ

閉じよ

アッ

閉じよ

閉じよ

王冠より出で  
王国に至る三叉路は  
循環せよ

閉じよ

閉じよ

繰り返す  
つどに五度

ただ添たされる  
刻を破却する

ぶわっ

告げる

聖杯の  
寄るべに従い

この意  
この理に  
従うならば応えよ

アァァァァ

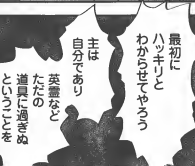








サーヴァント風情が  
何を偉そうなの!!



最初に  
ハッキリと  
わからせてやろう

主は  
自分であり

英霊など  
ただの  
道具に過ぎぬ  
というのを



……答えよ

貴様が不遜にも

王の光輝に  
縋らんとする  
魔術師か?



ぎひ  
かあ  
ああ  
ああ  
ああ

ああ

あ

あつ

あああ！

ああああつ

あああ

あつ

あああああ！

なんだ  
貴様は道化か？

なれば  
もつと華美の  
ある悲鳴で  
我を愉ませよ

ひあ

ひあち

◆◆◆◆◆

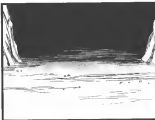
これは……

英霊による

ものではない……！

結界の中に……

……誰かがいる!!



誰だ!



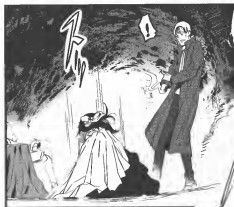
どうやって  
私の結界を  
抜けてきた!

恐れながら……

偉大なる王の前に  
この身を  
晒すお許しを  
いただきます







私の前に  
雑種の血を  
飛び散らせ  
なかったことは  
褒めてつかわす

だが

喰うに値せん  
肉の臭いを  
私の前に漂わせた  
理由について

弁解があるなら  
申してみよ

す  
ら

恐れながら  
王の裁きに  
委ねるまでも  
ないと……



蔵の鍵を  
盗みし賊に  
罰を与えました

下

!!

私の右手!

イナバネ イナ...

この鍵か  
くだらん

私の財宝に  
手を出す  
不埒者など  
我が庭には  
存在しなかつた  
からな

造らせたは  
いいものの  
使う必要がないと  
捨て置いたに  
過ぎん

ヤナ  
ヤナ...

先祖がすべてを賭けて  
追い求めた蔵の鍵を……!!!  
ギリィ  
リィン  
リィン

それが  
王の意向なら  
貴方とこれ以上  
命のやりとりを  
するつもりは  
ありません

どうか  
お引き取り  
ください

な...

そうすれば  
命までは  
取りません

左手に  
あったけの  
呪いと熱と衝撃を集め

暴走させる！

少女を  
呑みこむべく

疾る

奔る

趨る

だが  
そうは  
ならなかった



詠唱……  
無しで……？

……！？



違う

ちがッ……

ち

ちがッ……

こんなッ



ちがう！

違う！

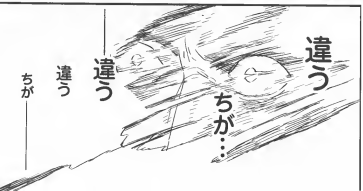
炎に  
呑みこまれながら  
思い出す



ここでッ……

死ぬッ……

私が……？



違う

ちが……

違う

違う

ちが

なるほど

我が不在の間  
貴様らが  
この土地を  
支配していたわけか

今の魔術は  
彼女の内から  
直接湧き上がった  
魔力によるものではない

この土地が持つ  
霊脈を利用したものと  
英霊は即座に看破した

支配ではなく  
共生です

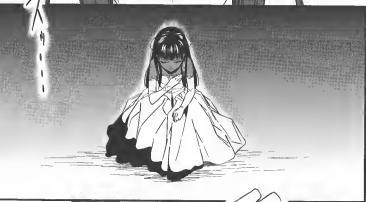
……御推察の通り  
このスノーフィールドの  
土地を出れば  
私の一族は  
ただの人にございます

雑種は雑種に  
過ぎん  
魔術の有無など  
区別するほどの  
差にはならぬ



ならば  
改めて尋ねよう

貴様が  
不遜にも王の光輝に  
縋らんとする  
魔術師か？



私は  
聖杯を求めて  
いるわけでは  
ありません

この土地を  
偽りの  
聖杯戦争の  
場として選ぶ

すべてを  
蹂躪しようとしている  
魔術師達を  
追い払いたい……

我らの悲願は  
それだけで  
ございます



一族のために  
感情を捨てた少女  
ティーネチエルク

このスノーフィールドは  
一千年前から  
我々の部族が  
共生してきた土地……

それを  
政府の一部が  
魔術師などという  
連中と手を組み……

わずか  
七十年で  
蹂躪されました



くだらんな

誰が上に  
乗ろうと  
すべての地は  
我の庭に  
帰するのだ

庭で雑種が  
諍いを起こそうと  
本来ならば  
捨て置く  
ところだが……

我の宝を  
掠め取ろうとする  
輩ならば

話は別だ

あくまでも自分のことしか  
考えていない男に  
少女は何を思ったのだろうか

一瞬だけ  
その傲岸さに  
羨望のような感情を抱き  
氣を引き締め直して  
洞窟の外に踏み出した





こやつらは  
何者だ？

……魔術師達と  
対抗し  
我らの部族を  
再興させるため

都市の中に  
作り上げた  
組織の者達に  
ございます



私が  
父の後を継ぎ  
総代として  
この戦にも  
選ばれた次第です

私の威を  
借りようとする  
だけのことはある

それなりの  
覚悟で  
この戦に挑んでは  
いるようだ

王はそう  
言いながらも  
退屈そうな  
感情を隠しも  
しない

だが所詮  
まがいものの  
台座

本気を出すに  
値する敵が  
出るまでは

しばし  
姿を変えよう  
としよう

まさにその瞬間



大地が啼いた

スノーワールドの  
四方から  
聞こえてきた  
巨大な咆哮

だが  
咆哮というには  
余りにも美麗な音で

まるで  
大地そのものが  
子守歌を  
歌っているようだった

物理法則すら無視した  
美しい大地の鳴動

途轍もなく  
強力なサーヴァント

恐らく

この声は……

それか





……おまえなのか？



……!?

王の……

威圧感が  
揺らいだ  
……？

斯様な  
偶然に巡り合うも

我が王たる証と  
謳うべきか！



雑種の小娘よ！  
喜へ

どじやらの戦

我が本気になるべき  
価値となったようだ！

面を上げよ  
ティーン





これは……?



若返りの  
秘薬だ



貴様の齡で  
使う必要は  
なかろうか

今の我には  
不要となった





幼童ならば  
少しは  
それらしくせよ



万物の  
道理の  
わからぬうちは



ただ王たる  
我の威光に  
目を輝かせて  
おればいい



努力致します



.....



かつて

——  
闘争があつた



舞台は  
東洋の  
とある国



その闘争において  
聖杯と  
呼ばれる奇跡は

「あらゆる願いを  
叶える願望機」  
として  
顕現すると言われていた

聖杯よりも  
先に顕現するのは  
七つの魂



この星の上で  
生まれ息吹いた  
あらゆる歴史

伝承

呪い

虚構

——ありとあらゆる  
媒体の中より  
選ばれた  
英雄の魂を

サーヴァントと  
呼ばれる存在として  
現代の世に  
顕現させる

それが  
聖杯戦争の  
根幹であり

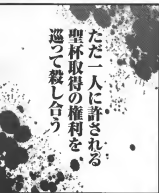
聖杯の顕現に  
必要とされる  
絶対条件でもあった



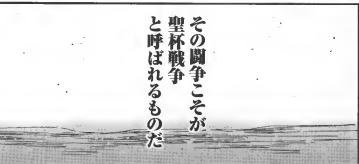
それぞれの  
英雄の  
召還者となった

マスターと  
呼ばれる  
魔術師達が

ただ一人に許される  
聖杯取得の権利を  
巡って殺し合う



その闘争こそが  
聖杯戦争  
と呼ばれるものだ



殺し合いによって  
敗れた魂を

聖杯となる  
器へと注ぎ

それが満たされる  
ことによって  
初めて願望機が  
完成する

そして  
現在――

かの闘争において  
現れたものと  
同じ兆候が

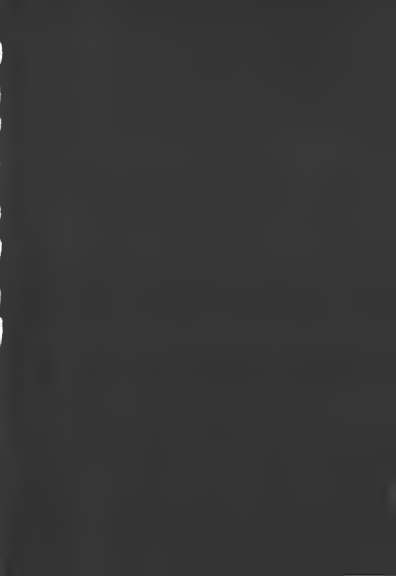
アメリカの  
地方都市で  
湧き上がりつつある

そんな話が  
魔術師達の間で  
持ち上がった

結果として  
彼らを統括する  
「協会」は  
秘密裏に調査を  
行うこととなり

こうして  
一人の魔術師と  
その弟子が  
派遣される形となった





ACT2 パーサーカー



英国そのものの  
歴史と比肩  
するとされる

まさに  
魔術師の  
総本山とでも  
呼ぶべき場所で

数多くの  
魔術師達を  
統括する  
「協会」の心臓部であり



その時計塔が誇る  
最高学府の校舎に  
似つかわしくない言葉が  
響き渡った

ファック……



同時に  
また若き魔術師達を  
育てるための最高学府

君はあれだ

一言で  
表すならば  
阿呆だな

そんな！  
せめて二言以上で  
表してください！



馬鹿で  
阿呆だ

それ以外に  
形容の  
しようがない



いや

どうしても  
参加したい  
んですよ

教授！

アメリカで  
始まるっていう

ガッ



聖杯戦争に！



まったく……  
君はどこで  
そのことを  
知った？

重要機密とまでは  
言わんが

おまえのような  
ペーペーの小僧ツ子が  
知っていて  
いいことではないぞ！



巫山戯るな！

こんな  
廊下で堂々と

その単語を口に  
するところが  
阿呆だと言っている！

ガッガッガッ

彼は  
この魔術師達の  
最高学府の  
教授であり

彼を知る者は

皆敬意をこめて

ロード・エルメロイⅡ世

と呼んでいる



時計塔の中で  
最も優秀な  
教師といわれ



彼に教えを受けて  
巣立っていった  
生徒達は  
各々が魔術師達の間で  
数多くの功績を  
生み出していた

ゆえに  
彼は魔術師達の間でも  
尊敬の念を集め

「プロフェッサー・カリスマ」  
「マスター・V」



「グレートビクペン☆  
ロンドンスター」  
「マジカ・デイスクロージャー」  
などじつに多くの「二つ名」を  
与えられている

どこぞ知ってた……  
昨日  
地下講堂で

教授や  
協会の幹部の人達が  
会議開いていた  
じゃないですか

ランガルさんって  
あの有名な  
人形師の人ですよ？

俺  
初めて生で  
見ましたよ！





ファック

「結界を  
すり抜け」

こいつの  
魔術の技術と  
才能は  
底知れぬ

「誰にも気づかれずに  
会議の内容を  
傍聴した」……？

だが

フラット・  
エスカルドス

魔術師に  
あるまじき  
気性の爆発を  
持ち合わせた男

才能のある  
馬鹿というのは  
本当に  
始末に負えんな……

てて……

ポ  
ン



今のは  
聞かなかった  
ことにしておく

だから  
これ以上  
私の平穩の  
邪魔をするな



イライラ

教授に  
迷惑はかけません

ただ

ほら  
何かヒーローを  
召喚するための  
アイテムが  
いるんでしょう!?

それ  
どうやって  
手に入れたら  
いいのかわからない  
ですよ!



ナポレオンの  
肖像画とか  
持っていったら  
ナポレオン召喚  
できるんですか

皇帝なら  
最強じゃ  
ないですか!

私が  
ナポレオンの  
英霊なら  
契約する前に  
君を銃殺している  
ところだ!

……  
フラット  
君はあれだ……

どうして  
聖杯を  
求める？

君に  
魔術の根源を  
求めるほどの  
魔術師らしさが  
あるとも  
思えんが

見たいからです！

……  
なんだと？

だって  
超カッコイ  
じゃないですか！  
聖杯なんて！

あのヒトラーや  
ゲッベルスが  
第三帝国のために  
追い求めて

秦の始皇帝や  
ノブナガやゴロウも  
追い求めた  
一品ですよ！

本当に  
存在するなら  
どんなのか  
見てみたいじゃ  
ないですか！

ゲッペルス  
じゃない  
ゲッペルスだ

あと○ジラは  
追ってない

ノブナガや  
始皇帝は  
知らんが  
時代や文化的に  
違和感がある

ペラペラペラペラ

君は  
魔術師同士の  
闘争というのが

どういうものか  
理解して  
いるのか？

フラット……

死ぬよりも  
悲惨な目に  
あった挙句

何を成すことも  
できぬまま

惨たらしく  
殺されるかも  
しれんのだぞ？

その覚悟を  
しても

みんなが  
追い求めるもの  
なんでしょう？

ますます  
見たくなるじゃ  
ないですか！

フラット……  
よく考え

いや

多分こいつは  
よく考えても  
同じ答えを出す

：別の  
方面から  
問うか

おまえは  
それだけの  
ために

相手を殺す  
覚悟があるのか？

うう……

殺さないで  
勝てる方法  
とかは……

チェスで  
決めるとか  
……

ああ凄い！

相手の魔術師が  
チェスの  
世界チャンピオン  
なら！

承諾して  
くれるかも  
しれんな！

チェスボクシング  
でもいいがね！

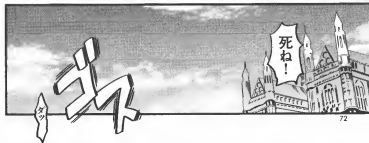
……むずかしい  
問題ですね

他の英霊  
とかも  
凄く凄く  
見てみたいし

できれば  
仲良く  
なりたいじゃ  
ないですか









キィイイイ

教授……!!

俺のために!?

だがそれは

これは……  
もしかして!?

!!



フニットの  
勘違いだった

教授……!!

あとで  
片付けます……

お……

え……





まあいい  
君が  
欲しいなら  
くれてやる  
私には  
必要のない  
ものだ



俺  
教授の弟子で  
よかったです！



本当に……  
本当にありがとう  
ございます！

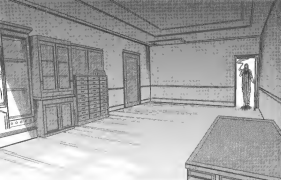
ありがとう  
ございます！



まったく  
私の若い頃とは  
正反対の奴だな

恐らく  
透視で中身を  
見たん  
だろうが……

あいつ  
そんなに  
欲しいものが  
入ってたのか？



他の  
サーヴァント  
を従え  
世界征服  
とはな……



カハ……



まさか  
私の弟子から  
そんな馬鹿げた  
懐かしい響きを  
聞くとは  
なるとは



どうしても  
止められぬ  
ようならば



これを  
渡すことも  
考えたが

そうならずに  
すんだことに  
感謝すべきか



数ヶ月前――

教授は自室で  
趣味である  
日本産のゲームに  
興じた後



丁寧なことに  
ゲームソフトのパッケージに  
同梱されていた  
アンケートハガキに  
感想を記入していた



わざわざ  
高い切手を貼って  
エアメールで  
送るわけだが  
その物珍しさが  
功を奏すのか

アンケートハガキの  
抽選による  
関連商品などが  
部屋の中に  
所狭じと並んでいた



もつとも  
彼はそうした商品の  
ほとんどに興味がなく

純粹にゲーム会社に  
意見を反映して  
貰うためだけに送り  
続けているのである



そして  
数カ月後

本当に欲しい商品が  
あれば  
直接注文して  
買いたいところタイプの  
彼は

小包に書かれた  
日本のメーカー名を見て  
「またいつもの特典商品だろう」  
と判断し

目を輝かせながら  
迫ってくるフラットに  
開封もせぬまま  
贈呈してしまったのだ

彼はメーカー名から  
ロボットを主体と  
したゲームの  
アクションフィギュア  
か何かだと思つて  
いたのだが

実際は  
「大英帝国ナイトウォーズ」  
と書かれた  
シミュレーションゲーム  
のものだった

そして  
その特典の  
商品とは



数日後

スローフィールド市  
中央公園

カッコイイなあ  
これ

フラットは  
準備もろくにせぬまま  
飛行機に飛び乗り

そのまま  
アメリカ本土へと  
渡航していた

聖杯戦争について  
大雑把には  
調べたものの

彼は細かい点に  
ついては  
まるで  
理解していない



彼は現在

ほま

自分の右手に  
浮かんだ紋様を  
嬉しそうに  
眺めていた



.....

令呪つてのを  
使うと  
消えるのかな  
これ



消えちやう  
みたいだ

ズン...

よし  
令呪は絶対に  
使わないようにしよう！

如何にして  
「使うと消える」  
という  
システムを  
見抜いたのか

その場に  
聖杯戦争の  
関係者がいたら  
つかみかかつて  
詰問するところだろう

でも  
本当に教授には  
感謝しなきゃね

ズン  
ズン  
ズン

なんだかんだ  
言つて  
俺のために  
こんなカッコイイ  
遺物を用意して  
くれたんだから！



箱から  
取り出した後も  
自らの勘違いに  
気づくことはなく

そして――  
あろうことが  
聖杯は彼を選び

聖杯戦争への  
参加資格である令呪を  
その身に宿らせた

むしろ  
より一層誤解を  
深めながら  
この土地まで  
来てしまったのだ

ナイフと  
令呪を  
見比べながら――

彼は先刻と  
同じように  
時折  
何かを呟き続ける

三十分ほど  
経った頃――

他の令呪の持ち主が  
知れば  
卒倒しそうな出来事が  
その公園の中で  
巻き起こる

問おう――

ドクン…

汝<sup>なんじ</sup>が我<sup>われ</sup>を召喚せし  
マスターか？





共に聖杯を  
望む者同士  
仲良くやって  
いこうではないか

なんと……  
祭壇もなく  
こんな  
衆人環視の中で  
サーヴァントの召喚を  
行うとは

我がマスターと  
なる者は  
中々に  
剛気なことよ！

……いや  
待て……

え？  
ええッ！

祭壇がない  
ということとは  
もしや  
召喚の呪文もなしか？

ええと……  
すいません

いろいろ  
魔力の流れとか  
弄ってる  
うちに……

なんか  
繋がっちゃった  
みたいですね

ふむ……  
まあいい  
それだけ優秀な  
魔術師という  
ことなのだろう

どうやら  
サーヴァントらしき  
存在の声は  
自らの頭の中に  
響いているようだ

あ  
あの……

サーヴァントって  
みんなさこういう  
感じなんですか？

いや  
私が特殊なだけで  
とくに気にしないで  
くれたまえ

何しろ私には  
確たる素性という  
ものがないのでな

姿も形も  
如何様にでもいえるし  
如何様にもいえぬ  
という次第だ

……

あの……  
貴方の名前を  
聞かせていただいて  
かまいませんか？

フラットには  
一つの  
疑問があつた



自分が  
手にしたナイフの  
出自が事実ならば

その正体は  
自分の  
想像通りのはずだ

だが  
フラットの中では  
頭の中の声と  
彼のイメージする  
「英霊？」との  
印象が一致しない

頭の中で  
「英霊？」としたのは

フラットにも  
それが  
「英霊」と呼ばれる  
類の存在ではないと  
知っていたからだ

.....?

.....

おい  
おまえ

あ







正直な話  
私にもわからん



私の本名を  
知る者が  
いるとすれば――

恐らくは  
伝説ではない  
真実の私と……

あるいは  
その凶行を  
止めた者だけだろう



恐怖の象徴として  
世界を恐れさせた  
性別すらわからぬ  
「彼」は

やがて  
人々の手によって  
様々な姿に  
想像され

数多の物語や  
論文の中に  
記され続けてきた



あるいは  
医者



あるいは  
貴族



あるいは  
教師



あるいは  
肉屋



あるいは  
娼婦

あるいは  
悪魔

怨念

陰謀……

狂気……

だが  
人は私をこう呼ぶし  
手紙にて  
私が名乗ったと  
される字は  
存在する

すなわち



存在の証だけは  
誰もが知っている

倫敦の二面に  
残された  
五人の娼婦の  
仕絶なる死体という  
この上ない  
存在の証明を

ジャック・ザ・リップパー  
切り裂きジャック



エルメロイⅢ世の  
ブレイした  
『大英帝国  
ナイトウォーズ』  
というゲームだか



彼は  
日本から通販で  
英国の伝説になる  
騎士同士の戦いを  
購入した際  
描いた  
シミレーション  
だとばかり  
思っていた

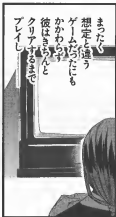
てつきり

描いた  
シミレーション  
だとばかり  
思っていた

だが  
カタカナで書かれた  
ナイトとは  
『夜』という意味の  
ナイトであり  
とある実在の人物を  
主人公とした  
アドベンチャーゲーム  
だった



まったく  
想定と違う  
ゲームだったにも  
かわらず  
彼はきちんと  
クリアするまで  
ブレイし



ふと  
アンケートハガキの  
裏を見ると



アンケートに答えた人の中から  
抽選で100名様に「ジャック・ザ・リッパーの  
銘入りナイフ」レプリカプレゼント!  
(商止め処理済み)



ジャック・  
ザ・リッパーが  
ナイフに  
銘なんぞ  
入れるか

「タイトルに難あり」  
という  
意見をはじめとして  
淡々と  
ゲームへの評価を  
書き連ねたのだらう





そのアンケート  
ハガキが  
後にどのような  
結果を  
もたらすかも  
知らぬまま――

つまり  
貴方のその

「誰でもない」  
という  
状況こそが

「誰にでもなれる」  
つていう能力な  
わけですか……

ああ  
しかし君は  
運がいい

?

もしも  
他のクラスで  
顕現していたならば  
君のその身を  
乗っ取って  
……

とりあえず  
この公園の中を  
血の海に  
していたことだろう

えッ……

サ

あ

あの……

ところで

貴方のクラス  
つていうのは  
なんですか？

アサシン  
ですか

おお  
これは  
すまない

私のクラスは  
パーサーカード

へ？

フラットが驚くのも  
無理はない

パーサーカードの  
クラスといえば

正気を失わせる  
ことにより

その力を  
引き出すのが  
特徴のクラスの  
はずである

私は  
狂気の象徴  
として  
生み出された  
伝説だからな

狂気こそが  
私の波長と合う  
唯一のクラス  
であるといえよう

ああ……

マイナス×マイナスは  
プラスって話ですね！

ふむ  
ふむ……

と云うで  
貴方は  
聖杯を見つけたら  
どんな願いごとを？

うむ……  
マスターには  
伝えておくべき  
だろうが……

笑わないで  
くれたまえ

正気を保った  
バーサーカーは  
少しだけ躊躇った後に  
己の言葉を響かせた

……あの倫敦の  
ホワイトチャペルにて  
五人の娼婦を  
殺したのが  
誰だったのか

つまり  
私は何者なのか

自らの正体を知る

奇妙な話ではあるが  
恐らくは  
ただそれだけが  
そのサーヴァントの  
すべてなのだろう

ただ  
それを  
知りたいのだ

何者か  
……

で  
正体を知ったら  
どうするんですか？

例えば  
今後  
聖杯戦争じゃない  
ところで  
誰かに  
召喚されたとき……

その  
自分の正体  
だった  
人の姿を真似て  
現れるんですか？



私は  
殺人鬼である  
ということをも  
前提として  
語られし伝承だ

真実の存在する  
伝承なれば  
私はより  
真実に近く  
あるべきだろう

そういうことに  
なるのかも  
しれんな

どこか寂しげな  
サーヴァントの  
言葉に――

それこそ  
自分がないみたいに  
思えますけど

……君はたまたまに  
空気が読めないとか  
言われることは  
ないか？

アハハ  
よく言われる  
んですよ！

ありがとう  
ごさいます！

別に  
褒め言葉では……

いや  
よしとしよう  
もうこの話を  
することは  
なからう

しかし……  
よくもまあ  
私を呼び出そうなどと  
思ったものだ

英雄達ほどの力も  
人間としての  
倫理観も期待できぬ  
であろうに

普通に考えれば  
二の足を  
踏むであろう  
サーヴァントを  
召喚したマについて

フラットは  
あつかりと答えた

俺は  
好きっすよ

貴方みたいな  
正体のわからない  
謎の怪人って

だって  
かっこいいじゃ  
ないですか！

しかも  
今はいい人みたいで  
良かったです！

サーヴァントは  
青年の答えを  
どう  
受け取ったのか――

私が  
「いい人」か……

君は少々  
変わり者の  
ようだな

……ならば  
マスターよ

まずは  
どう動く？

私の能力があれば  
あらゆるところに  
侵入し

敵のマスターを  
直接潰すことも  
可能であろう！

私は  
君の指示通り  
動かせてもらう  
つもりだが？

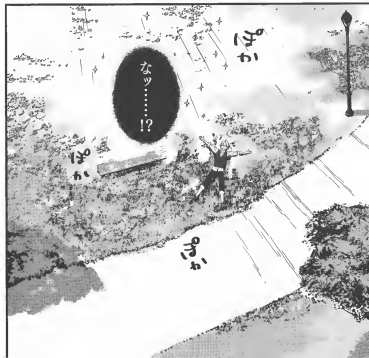


トサ

。。。

とりあえず  
いい天気だから  
日向ぼっこ  
しましょう

あったかくて  
超気持ちいいすよ







……ふむ

そこまで  
聖杯戦争を  
理解しているのならば  
十分だ

だが  
ファルデウス



そこまで  
識っていないながら

君のその  
投げやりな態度は  
感心できん

ことごと  
場合によつては  
「協会」全体の  
問題となり

あの忌々しい  
「教会」も  
出張ってくる  
ことになるだろう

もつと  
気を引き締めたまえ

ですが  
本当に  
この  
土地で？

聖杯戦争の  
システムは  
アインツベルンと  
マキリ  
そして  
遠坂が提供した  
土地によつて  
組み敷かれた  
ものでしょう？

それを  
誰かが掠め取った  
つてこと  
でしょうかね……

半世紀以上も  
前に？

ああ  
真実だと  
するならば……

最悪の場合  
この都市自体が  
聖杯戦争のために  
造られた  
という  
可能性もある

まさか！

可能性の話だよ

聖杯を  
追い求めた  
例の三家は

聖杯を手に  
するために  
それこそ  
なんでも  
やったと聞く

そもそも

何者が

聖杯戦争を

この街で再現しようとして  
いるのかも

つかめていないんだぞ？

それこそ  
マキリや  
アインツベルンの  
縁者が出てきて  
も  
驚かんよ

……遠坂の縁者は  
今は時計塔に  
いるのみだから  
それはないと  
思うがね



もしも  
本当に聖杯戦争が  
起こるとすれば

我らが協会も  
教会の信者達も  
黙っては  
いないでしょう



ああ……

だが  
今のところ  
兆候に過ぎんからな

地脈の流れに  
異常があると  
時計塔の  
ロード・エルメロイが  
言っていたのだが……



彼の弟子なら  
ともかく  
彼自身の推測は  
粗が目立つからな

こうして  
現地まで出向いて  
確認する  
というわけだ

もつとも

英霊なぞ

聖杯の下ごしらえが  
なければ

召喚できるものではない

実際に

英霊の召喚が  
成されれば

その時点で

疑惑は確信へと  
変わるのだが……

そうなつて

欲しくは  
ないものだ

さつきの話と

矛盾して  
ませんか？

聖杯は

魔術師の悲願であり  
通過点だと……

ああ……  
そうだな

だが仮に

真なる聖杯と  
呼ぶに値するもの  
だとすれば

……  
忌々しいことだ

私は

礼儀知らずの若造に  
寝台を土足で

踏みしめられた気分だよ

このような

歴史の浅い国に  
それが顕現するなど……

そういうもの  
ですか



しかし  
本来の場所とは  
異なる土地で

如何なる  
サーヴァントが  
召喚されるのか……

まったく  
予想が  
できませんね



アサシンは  
ともかく  
他の五種に関しては  
召喚者次第ですから

おい  
アサシンを除けば  
残り六体だ



先刻  
自分の口から  
七体のサーヴァントと  
吐き出した  
ばかりだろう！

しつかりしてくれ！

聖杯戦争に呼ばれる  
英霊には  
それぞれ  
クラスが与えられる――



セイバー

アーチャー

ランサー

ライダー

アサシン

キャスター

バーサーカー



召喚された  
英霊は

それぞれの  
特性に合わせた  
存在として  
顕現し

己の業をさらに  
研ぎ澄ます

いわば  
それぞれ  
違う特性をもった  
チェスの駒の  
ようなものだ

手駒は一つだけ  
しかも  
バトルロイヤル  
という  
変則的なチェス

そうした  
聖杯戦争の  
常識の中の  
常識であるという部分を  
言い損じたことに

師は弟子の不肖を  
嘆いたつもり  
だったのだが――



叱咤を  
された側の  
男は

ただ

淡々と  
言葉を紡ぐ





.....なに？



この弟子が  
自分のことを  
名で呼ぶなど  
これが初めてのことで



いいえ  
はしら  
六柱ですよ

ミスター・  
ランガル

冷たい違和感が  
走り抜ける

日本で  
行われた  
聖杯戦争の  
クラスは

確かに  
七柱というのが  
ルールでした

しかし  
この街の場合は  
六柱です

こと闘争において  
最も力を発揮する  
といわれる  
セイバーの  
クラスですが……

この  
偽りの聖杯戦争には  
存在しないんですよ

……うー？

!?

何を……

何を……

言っている？

ギチリ  
と背骨から音がする

身体の中に  
張り巡らされた  
魔術回路が  
通常の神経が  
血管のすべてが

ランガルの耳に  
警報音を  
響かせている



マキリと  
アインツベルンと  
遠坂



彼らの生み出した  
システムは  
じつに素晴らしい

それゆえ  
完璧にコピーする  
ことは  
できなかった



完全に  
コピーした状態で  
始めたかった  
のですが

何しろシステムを  
模倣するために  
参考にした  
第三次聖杯戦争は  
トラブル続きでした



本当に  
参りました



明らかに  
二十代半ばとしか  
思えない青年が

まるで  
視てきたかのように  
半世紀以上前の  
出来事を語りだす



ファルデウス  
ですよ？

もともと

その名以外の真実を  
貴方に見せたことは  
ありませんが

ともあれ

協会については  
本日この瞬間まで  
多くを学ばせて  
いただきました

その点に  
ついて

まずは

謝礼を

述べるべき

でしょうか

……

ランガルは

目の前の男についての

認識を

一瞬にして

弟子から敵へと

切り替える

ランガルの  
全身からは

警報音が

鳴り響いた

ままだ

出方によっては  
次の瞬間に殺すべく  
感情をスイッチ  
させたのだが

それでも



外部組織  
ねえ



つまり  
外部組織から  
協会への  
スパイだった  
というわけか  
私の前で  
魔術師を  
志すと口にした  
瞬間から



協会も教会も  
協会に所属しない  
異端の魔術集団が

この聖杯戦争を  
仕掛けていると  
考えている  
ようですが……

いや  
いいでしょう



……  
舐めるなよ  
若造



舐めてませんよ

だから  
全力で  
お相手させて  
いただきます



………



シキリ



ふふ  
手品ですよ  
魔術じゃない

三





ああ  
そうそう

我々は別に  
魔術師の集団では  
ありませんので

あしからず



我らが  
合衆国に  
属する組織

その一部に  
たまたま  
魔術師もいた  
というだけです

なるほど  
で  
その安物の葉巻が

貴様の全力と  
どう関係が――



瞬時にして  
老人の活動を停止させた



老人の頭蓋を  
簡単に貫いた弾丸は

すでに  
絶命していることは  
目に見えて  
わかる状態だと  
いうのに

追い打ちを  
かける形で  
数十発の弾丸が  
突き刺さった

方向は  
一ヶ所からではなく

十ヶ所以上からの  
狙撃が考えられる

明らかなオーバーキル


執拗な破壊

ラップに合わせて  
踊る操り人形のように  
老いた身体は  
力ない四肢をくねらせ

グチャリ  
グチャリと  
舞い回る

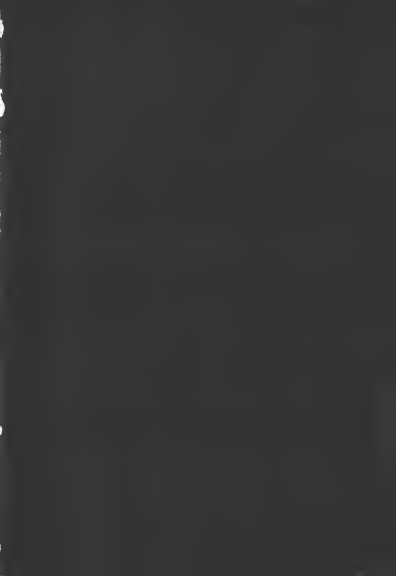


滑稽な  
ダンスを  
ありがとう



三十歳ほど  
若く見えますよ

ミスター！  
ランガル



ACT3 アサシン

とある国に

とある信仰

篤き者がいた

それだけの話

ただ

それだけの話だった



信仰篤き者は

その常軌を

逸するほどの

信仰心から

人々に

『狂信者』

と蔑まれた

よりもよって

同じ神を

崇める者達からも

同じ蔑みの言葉が

与えられた



だが

狂信者は

人を憎まない

自らが

蔑まれるのは

まだ未熟だからだ

信仰心が足りない

ただ

それだけのことで

狂信者は

なおも自らを

追いこみ続ける

先人達の

起こした奇跡を

追い求め

そのすべてを

再現してみせた

だが  
足りぬ

まだまだ  
足りぬ

世界は

狂信者に

そう叫び続ける

かのようにだ



足りぬ

狂信者として生き

殉教することすら  
許されず

たが、  
無為な人生を過して  
姿を消した

だが  
それでも

狂信者は  
世界に恨みを  
抱かない



己の未熟を恥じ  
再び信仰の滴へと  
身を落とす

狂信者は恨みなど  
持たない



ただ  
異なる  
神を憎むのみ

そうした  
常人には  
度しがたい  
狂信者がいた

ただ  
それだけの  
話だった

それだけの話で  
終わるはずだった



偽りの聖杯が

その狂信者を選ぶ瞬間までは

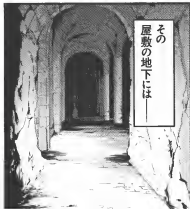
スノーフィールド東部  
湖沼地帯



結界が張られた  
一際巨大な  
別荘が存在した



その  
屋敷の地下には――





数人の  
魔術師が存在し

今まさに  
召喚の儀を  
終了したところだった



——  
妙だな



あとは  
サーヴァントの放つ  
「問い」を肯定し  
契約を締結させるのみ

だが——



そのサーヴァントを  
召喚せし魔術師

ジエスター！  
カルトウーレ

黒いローブに  
身を纏う  
一人の「女」

ジエスターは  
その時点で  
強い違和感を  
覚えていた

私は  
アサシンの英霊を  
召喚したはずだが

聞いた話では  
白い胸腰の面を  
つけていると……

通常は  
英霊たちの器となる  
クラスを完全に選ぶ  
ことはできない

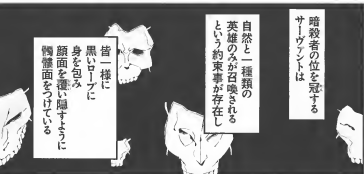
ただ  
例外はある

アサシンと  
バーサーカーのクラスは

ある特殊な性質から  
詠唱や下準備などによって  
任意に召喚することが  
可能なのだ





そして  
ジェスターは  
そのルールに従い  
アサシンの  
クラスを召喚した



暗殺者の位を冠する  
サーヴァントは

自然と一種類の  
英雄のみが召喚される  
という約束事が存在し

皆一様に  
黒いローブに  
身を包み  
顔面を覆い隠すように  
胴體面をつけている



だが  
目の前の  
黒装束の女は  
白い面をつけておらず  
素顔を晒している状態だ

ジェスターは  
実際に聖杯戦争を  
体験するのは  
初めてのことにた

そもそも  
本来の聖杯戦争とは  
違う質でもある

日本で  
行われたものと比べ  
どのような差異が  
起こるのかは  
予想もつかない

——さりとて  
こちらから  
何か問いかけて  
いいものか……







—  
なんだ？



ジスターは  
自分の胸の前に

赤いナニカが  
伸びており

やはり  
赤いナニカを  
ツカんでいるコトに気づキ

続イテソレガジブンノ  
心臓デアるトキヅキ



女の背から  
唐突に現れた  
三本目の赤い腕が

魔術師の  
胸板に触れたかと思うと

その赤い手の中に  
心臓が現れ

勢いよく握り潰した

き  
貴様！

ジェスター様に  
何を!?

サ  
ー  
ヴ  
ェ  
ン  
ト  
で  
は  
な  
い  
の  
か  
!?



我らが神は……  
杯など持たない……





…空想電脳…



異端の魔術師は……  
排除する……

目の前にいるのは  
紛れもなく  
サーヴァント



夢  
想  
髓  
液



狂信者が求めたものは証だった

まだ若かった頃の  
彼女は

信仰の証として

一つの名を得るべく  
修練を積んだ

異端者や神敵より  
速やかに

そして確実に

命を消し去るための奇跡

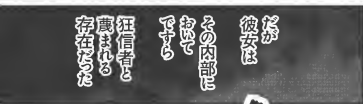




存在自体が  
狂信的といつてもいい  
暗殺者の集団



彼女が所属したのは  
その奇跡を  
追求する一派だった



だが  
彼女は

その内部に  
おいて  
ですら

狂信者と  
蔑まれる  
存在だった



誰もが  
彼女の所行に  
目を見開いた

まさか  
まだ年若い女の身である  
信徒の一人が――



過去に存在した  
十八人の長の奇跡を

すべてその身に  
修得させようとは





彼女が誰よりも  
血の滲む修練を  
くぐり抜けたことは  
明らかだった



だが  
教団の者達は――  
彼女に長の名を  
継がせることを  
認めなかった



おまえが  
していることは  
なんだ？

写本の域に  
届かぬ

「奇跡の模倣」に過さん

しかし  
それは理由の半分

通常ならば  
一つ習得することに  
一生を費やすといわれる  
業の数々を

ものの数年で  
すべて修得した  
彼女の才に  
多くの者達が  
畏怖の感情を抱いた

——故に  
おまえは未熟

そんな者に  
我らが長の名を  
継がせることなどできぬ

……  
——そうか  
まだ私は信仰が  
足りなかったのか

なんと私は  
未熟なのだろう

過去の長達の  
業を侮辱してしまった



新たな長として  
百の貌と  
字される者が  
選ばれたとき――



有りとは凡ゆる  
事柄をこなす  
その姿を見て  
確かにそれは  
自分にはない  
能力であり

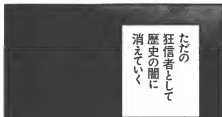


彼女はその長を  
羨むでもなく  
ただ自身身の  
未熟を恥じた



彼女は  
結局なんの証を  
得ることもできず

ただの  
狂信者として  
歴史の闇に  
消えていく



そのはずだったのだが――

如何なる  
運命の悪戯か

ジエスターという  
男によって  
喚び出された彼女は


聖杯より与えられた  
知識をもつて  
即座に自らの  
運命を知る

同時に  
歴代の長達の  
幾人かが  
その聖杯を求めた  
ということを知り

彼らは  
自分よりも信仰が篤く  
今でも  
敬意を払うべき  
存在だ


憎むべきは  
彼らを惑わせた  
聖杯戦争という  
存在そのもの

ただ 悲しんだ



彼女は  
聖杯の気配を求めて  
駆け抜ける

異端の証である聖杯を  
無へと帰するため



魔術師を殺したからには  
魔力の供給も  
じきに  
終わるだろう

それが  
消えたとき  
自分は消える

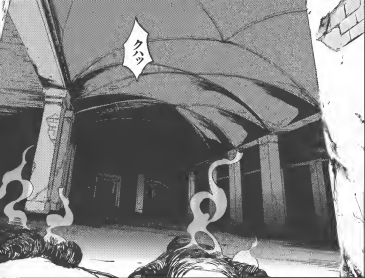
果たして  
数日後か  
数時間後か  
あるいは数秒後か――



彼女は  
なんの  
躊躇いもなく

最後に消え去る  
一瞬まで

聖杯戦争の  
すべてを  
敵に回すと  
決意した



この部屋には屍しか存在しない



無邪気な笑い声が鳴り響く



しかし  
事実是不変





ハハハハ！

クハッ

ハハ！

ハハハハハ！

ハハハハハ！

いや  
驚いた！

聖杯もまた

とんだ

異端児を

喚び寄せたものだ！

ハハハハハ！



もつと  
詩吟を学んで  
おくべきだったな……

彼女の信念を  
形容する言葉が  
見つからん！

2/21/17

१/३३३३

मलमल ...

魔術師としての  
概念核を  
こつもあつさり  
屠り潰すとは！

魔術師としての  
私に  
油断はなかった！

だが  
それに  
意味はない！

たとえ  
私よりも遅かに  
力のある存在だろうと

あの腕は  
すべてを無に返す  
ことだろう！

魔術師としての  
魂は  
完全に滅びた

ここからは

別の顔を  
使役うとしよう



概念核も  
幾重にも及ぶ  
魔術的防護を  
施していたと  
いうのに

単純明快にして  
なんとも  
凶悪な毒手よ！

しかし  
それ故に

美しい！

あの赤き腕は  
そのすべてを  
完全に  
虚無の彼方に  
押しやり

命の中心へと  
その爪を  
届かせた……

あれが宝具  
というものか！

しかし  
あの恐るべき業を  
あも躊躇いなく

しかも  
連続で行使する  
とはな

並の魔術師の  
魔力では  
とうに力尽きている  
ことだろう

まだまだ  
世の中に  
退屈することは  
なさそうだ……

あの美しい  
暗殺者を！

その信念を！

名もなきまま  
薄れさせて  
いいものか！

否！

そんな  
もったいないこと  
誰が  
認めるものか！

それは――

彼女の  
記憶を知る者にしか  
語ることのできぬ  
言葉だった

魔力の通り道を通じ  
マスターは  
サヴァントの  
思念や記憶  
過去を読み取ることが  
あるという

それが事実だとするならば  
ジェスターは死にながらにして  
彼女の夢と信仰を  
覗き見たというところになるが

私が  
名を与えよう！

あの  
美しい顔を  
魂を力を  
信念を……

汚し

穢し

貶し

屈服し

墮落す！

それ以上の  
快樂が  
どこにある！



楽しいだろうなあ！

楽しいだろうなあ！

楽しいだろうなあ！

あの美しき  
サーヴァントを  
跪かせ  
信仰を砕き

その力を  
吸い尽くしたときに  
彼女が  
見せる表情は！

クアハハハハ

ハハハハハハ！

この国では  
同じく異端の者同士  
せいぜい  
仲良くしようじゃ  
ないか！

クアハ……

ジエスター！  
カルトウーレ

生きる屍――

「吸血種」







御苦労さまです



報告します

周囲に異常は  
ありません

さて……

ズラ……

君達は  
魔術師というものを  
よくご存知ない  
でしょうから

少し説明して  
おきましょう

魔術師は  
魔法使いでは  
ありません

そんな御伽噺や  
神話のようなものを  
想像する必要はなく……

そうですねえ

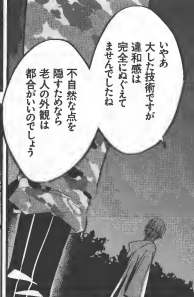
せいせい  
日本産のアニメーションや  
ハリウッド映画を  
想像していただければ  
結構です











いやあ  
大した技術ですが  
違和感は  
完全にぬぐえて  
ませんでしたね

不自然な点を  
隠すためなら  
老人の外観は  
都合がいいでしょう



ならば  
先刻の会話も  
筒抜け  
ということでは  
ありませんか



かまいません  
予定通りです

は……？



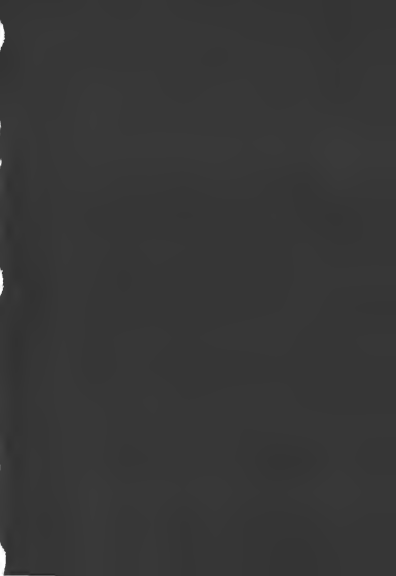
わざわざ非合理的な  
冥土の土産を  
語ったのは

それを協会に  
伝えてもらうことが  
目的だったんですから

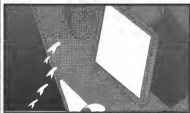
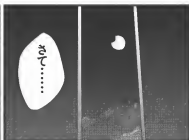
これは  
我々なりの……

魔術師達への  
警告と宣伝ですので





ACT4 キャスター





はい  
現在  
マスターともども  
正体が確認  
されているのは

英雄王を従えた  
ティーン・チエルク  
ただ一人です



他の魔術師達に  
関しては  
何人も街に入つて  
いることは  
確認できるのですが……



我々が  
共闘を  
持ちかける  
予定だった  
繰丘夫妻とは  
連絡が取れなく  
なっており



いかんせん  
誰に令呪が  
宿つたのかまでは  
察知できませんので



意外と街全体の  
監視システムも  
使えぬものだな

そうか



ただ一人  
堂々と日中の公園で  
サーヴァントの  
召喚を行い  
令呪を眺めている  
魔術師がいたのですが……



間抜けかと思つたら  
どうやら  
相当にできる  
魔術師のようです



結局サーヴァントは  
奇妙な幻影を  
見せただけで  
姿を現さず

日光浴をしている間に  
つけた監視は  
あつさりまかれました

英霊の  
性質なども  
わからぬままか？

はい

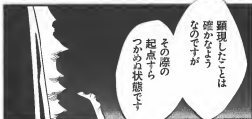
とくに  
最初に顕現した  
英霊に関しては  
街中に監視の目を  
光らせています

影も形も  
つかめません



顕現したことは  
確かだろう  
なのですが

その際の  
起点すら  
つかめぬ状態です



ふむ……

国の連中も  
宣伝などと  
余計なマネを  
してくれたものだ



いえ  
それが  
……

最初の  
顕現の時刻は  
彼の「宣伝活動」と  
ほぼ同時刻です



……ならば  
それこそが  
縁丘の呼び出した  
英霊という  
可能性が一番大きいな









キヤスターか……  
なんの用だ

なんの用だは

ねえだろうが!

あれだ!

ちよいと今

テレビで見たんだ

けどもよお!

この国にや

抱くのに一晩

何百万もかかる

すっげえいい女が

いるつてのは

本当か!?



今晚ちよつと  
呼んでくれよ  
兄弟



……  
そうだと云ったなら  
どうするんだ？



貴様と  
兄弟になつた  
覚えはない

なんでえ  
俺と兄弟の杯を  
交わしたのを  
忘れたとは  
言わせねえぞ？



……貴様は  
英霊として  
マスターたる私と  
契約した

それ以上でも  
それ以下でも  
ない

わかつてねえな



兄弟の杯を  
交わすつて  
なかなか  
いい言葉だよな

ネットで  
調べたんだが  
東洋人が  
よく使うらしいぜ  
気に入った！

勘違い  
するなよ？

俺の仕事は  
英雄を  
生み出すことだ

決して  
俺自身は  
英雄なんかじゃない

キヤスター



ただし  
英雄のように  
俺を

もてはやすのは

OKだ

女なら

なおよしだな



確かに  
女を百人抱いて  
ガキを千人  
生ませたなんてのは

モテない男どもに  
とつちや  
英雄つて見られても  
仕方ないかもな!

三秒で君破できる  
ホラ話するのは  
止めたまえ



そんな嘘を  
並べ立てる暇が  
あったら  
とつとと作業の続きに  
取りかかれ

つかー!

まだ

やらせる気か?

少しは

俺の都合ってもんも  
考えて欲しいね！

いいか？

俺は別に  
聖杯に向ける  
願いなんざ  
美味い飯といい女  
ぐらいのもんだ

それなのに  
おまえ

これじゃ  
結末を見る前に  
発狂しちまうぞ！

それより  
俺はな

どんなドラマを生み出し  
どんな結末を迎えるのか

それが  
見てみたい  
だけだ！

この戦争に  
乗っかる連中が

女も飯も  
世話してやる

だからあんたは  
とつと

『昇華』の作業を  
続けてくれ

やれやれ  
つまらん

野郎だねえ

そもそも  
人を呼び出しという  
専門外の仕事を  
押しつけてるつてことを  
忘れるなよ?

だいたいだな  
模造品造りなら  
もつと適任が  
いるだろうがよ!

昨日

インターネットで

調べたぞ

エルミア・デ・ホーリー

とかいう奴とかな!

スケー魔術を使つて

無限にコピー造れる

奴とかもいるつて

噂を聞いたぞ?

単なる贋作では  
意味がないのだ

原典を越えねば  
英雄王の蔵には  
齒が立たぬ

俺のアレンジ力を  
評価してくれる

嬉しくて

涙が出る！

こんなやつたら

質作騒ぎんとき

ジョークで

「本物よりも俺のほうが  
おもしろえだろ？」

なんて言わなきや  
よかつたぜ

百年以上も

後仁

クレオパトラや

楊貴妃を

— 201 —

叩き起、ふたつ折って

コキ使われるたあ

思つてなかつた

こんな話

売れねえよ

ふぎけんな

勘違いするな

君を選んだのは  
何もその真偽の  
怪しい逸話が  
あるからではない







ならば  
こちらも  
数で押すしか  
あるまい



奴が剣を  
抜くより前に

如何なる  
手練手管を使つても  
虚を生み出し

正々堂々と  
謀殺すべし  
だ



英雄王  
ギルガメッシュ……

奴の宝具の中で  
厄介なのは  
無名の剣と  
無限の蔵だと聞く



だが  
ただで押して  
勝てるわけもない



そもそも  
英霊には  
物理的な攻撃が  
通じない上に

純粹な  
腕力だけでも  
一流のアスリート達を  
圧倒的に上回る

ああ  
私の召喚した  
キヤスターは別だがね  
恐らく殴り合いならば  
私にも分がある

……まあ  
それはいいだろう

だが……  
逆にいえば

人の身で宝具を  
使いこなすことが  
できたとすれば？

宝具とは  
それぞれの英雄が持つ  
神業とも呼ぶべき  
ワイルドカードだ

ヤマトタケルの  
伝説における  
天叢雲剣のように

まさに  
英雄達の象徴であり  
各々の力を  
最大限に引き出す代物だ

サーヴァントを  
召喚する  
という行為は

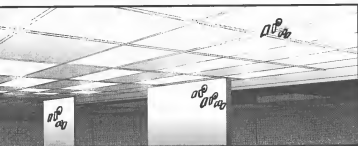
強いていえば  
宝具を召喚すると  
言い換えてもいい

それほどまでに  
宝具の存在は  
戦争の行方を  
左右するのである

さらに……

それらの武具が

あらゆる宝具の  
原典を上回る力を  
持っていたとすれば？





なんと異様な  
光景だろうか――

制服警官達が  
剣や弓、盾といった  
武器を握りしめ

これから地域振興ショーを  
始めるとても言い出しそうな  
雰囲気だった

もはやそれは  
滑稽な印象さえ受ける

だ

多少センスのある  
魔術師が  
その光景を見れば  
笑うどころか  
卒倒しかねない

なぜなら  
彼らが握る  
それらの武器からは――

空気そのものを  
侵食する

とても

言わんばかりに

バーバヤ

魔力と英気が  
練り合わされた  
力が滲み出している

その宝具は  
すべてが贗作――

されど  
その力は  
伝説をも上回る

――クワン・カフ・テイレン  
二十八人の怪物――

かつて

ケルトの伝承の中で  
クローリーリンと  
相まみえた戦士の名

今日から君達の  
コードネームのような  
ものになると  
思ってくれたまえ

安い言葉ではあるが  
警察署長である私が  
保証しよう

魔術師たる私は  
確約しよう

彼らは――

君達は――  
正義だ

人間の手で  
英霊達を打ち倒すという

聖杯戦争の根本を  
揺るがす道を選んだのだ







あれれれ  
なんだか  
反応が冷たいぞ？

用が無きや  
来ちやいけない？

少なくとも部外者が  
入っていい場所では  
ないな

へえ  
私を部外者  
呼ばわりかあ

えらくなったなあ  
新米君

それにしても  
さっきのは  
傑作だったよ

なんだっけ

「君達は正義だ」  
だっけー？

凄  
い  
名演技だったよ

私が  
ゴールデングラスベリー賞の  
審査員だったら

迷わず

主演男優賞に  
投票してあげるね！



演技で  
言ったつもりはない

真実を  
述べただけだ

あれ？

あれ？

もしかして  
自分達が  
正義だって本気で  
思ってるの？

この壮大な  
詐欺を  
仕掛けた側にいる  
貴方が

そうだ



凄い凄い！  
その鉄面皮  
憧れちゃう！

愛国心とは  
ちよつと  
違うよね？

本当に  
この国の事が  
好きなら  
こんなこと正義だ  
なんて  
言わないもん！

確かに私は  
愛国者ではないし  
敬虔な神の徒でも  
ないかもしれん

だが  
信じるべきものを  
信じた結果の  
行動だという  
自負はある

もつとも  
我々の正義が  
聖杯にとつても  
そうだとはい  
言わねえ

場合によつては  
協会と教会  
だけではない

聖杯戦争の  
システムそのものを  
敵に回す事に  
なるだろう

大丈夫大丈夫

この聖杯戦争に  
調停者は  
来ないから

スノーワールドの  
聖杯戦争は  
偽物から本物に  
昇華されて  
正道から逸脱する

そうすれば  
調停者には  
止められない

仮に  
本物の聖杯戦争に  
切り替わった後に

調停者が  
来ても  
もう遅いの

介入すら  
できない

やりたい放題に  
聖杯戦争を  
陵辱できるの！

なに？

これって  
凄い事だよ？

あの聖処女を  
もう一度  
陵辱し尽くして

フタの餌にも  
ならないような  
消し炭に  
変えられるなんて！

あの時は  
心が折れて  
なかったけど

今回は  
仕事をやり終えた  
英雄じゃない

ああッ！

凄い！

やつぱり  
来ないかな

最高！

来てくれないかな  
調停者！

役目を果たせなかった  
聖杯の調停者として  
死ぬんだから  
きつと

悔しがると思う！



それは  
正義も  
一緒だったね！  
ごめんごめん！

あ  
そうそう

偽物の  
キヤスターさん  
女の人がお望み  
なんだっけ？

だったら  
私が行って  
相手して  
あげよっか？

余計な事をせずに  
とっとと  
本部に戻れ

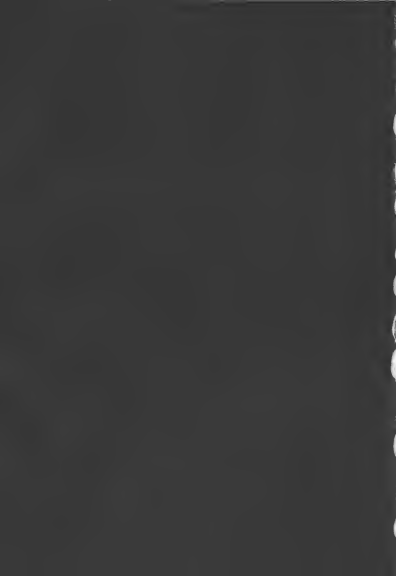
はいはい

私は私の  
出番まで  
大人しく  
してますよ  
……と

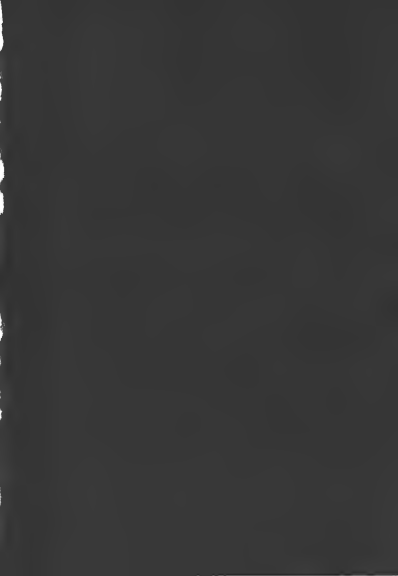
1PM

せいぜい  
黒幕を  
気取っていろ

老害が





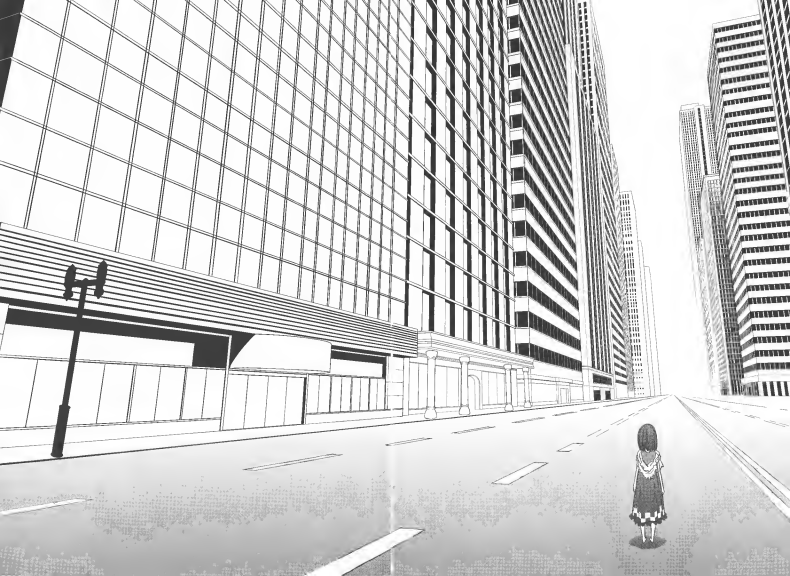


ACT5 ライダー

なんて

きれいなんだろう







街の中心である  
交差点の  
さらに中心



彼女はすでに  
十分以上もその場所に  
立ち続けていた

信号は何度も  
入れ替わる

しかし  
クラクションの音  
一つ響かない

それも  
そのはず

彼女の見る  
光景の中には

人間という存在が  
完全に消え去っていた



おとうさん

おかあさん

ごめんなさい

私

ちゃんと  
できなかった

彼女は  
二つの感情を  
蘇らせる

一つは  
人に会えぬ  
寂しさ

もう一つは



やはり  
娘さんが  
今後意識を  
取り戻すことは  
むずかしいと  
言わざるを得ません



今日で  
娘が入院してから  
一年が  
経ちますが……

それは  
悪化した  
ということですか？

……いえ  
肉体的には  
顕著な悪化の  
症状はありません

ただ  
意識の回復  
という点では  
時間がかかれば  
かかるほどに  
可能性が  
低くなります



細菌が  
変異している  
様子も  
見られません

逆にいえば  
これからも  
彼女の脳の活動を  
阻害し続ける  
ということ



そうですか……



脳の組織を  
壊死させるほどの  
ダメージを  
与えるわけでもなく

ただ  
その活動だけを  
緩やかに  
阻害している  
状態です



……先生



しかし  
可能性が  
ないわけでは  
ありません

植物状態となり  
十年以上経過してから  
意識を取り戻した  
患者の例もあります

どうか  
お気を  
落とさず





娘の意識は  
ともかく……

生殖機能は  
無事なん  
でしょうか？

……は？



意識は  
ともかく……？

え……っ

……



卵巣と子宮……

最悪でも卵巣だけでも  
正常に成長するのか

調べて  
いたきたい  
のですが



え……

いや

カサ

病巣が  
活動しているのは  
脳の一部だけ  
ですので

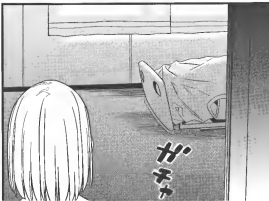
臓器などに  
顕著な異常は  
現れて  
いませんが……





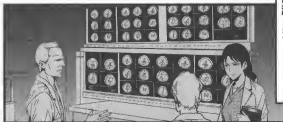
娘が  
意識不明になった  
ショックで  
混乱している  
のかもしれない

今度  
来院したときは  
カウンセリングを  
勧めようかしら……





検査の結果  
少女の体内……  
とくに  
脳の周辺に  
病巣が点在することが  
確認された



それは  
未知の細菌によって  
引き起こされていると  
確認された

院内は  
感染の可能性なども  
含めてちよつとした  
パニック状態となつた



しかし  
その細菌に  
感染性は  
認められず

いったい何故  
少女の身体を  
蝕んだのかも  
わからない

さらに  
設備が進んだ  
病院でも  
検査を行うという  
案もあつたが

何故か  
受け入れを拒否され

この市内病院で  
経過を観察する  
という結果となつた





少女が  
思い出した  
ものは――

痛みと恐怖

おまえを立派な魔術師にしてあげよう



その言葉と  
共に  
注がれた愛

それは  
彼女の  
幼い心にも  
理解できた



だが痛みは彼女を蝕んだ

痛みが

痛みが

痛みが

痛みが痛みが

痛みが痛みが

痛みが

彼女の過去を  
支配する



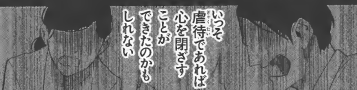
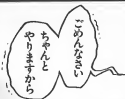
楽しかった  
思い出も

嬉しかった  
思い出も

哀しかった思い出も  
あつたはずなのに

すべて

痛みの記憶に  
上書きされる



いつそ  
虐待であれば  
心を閉さす  
ことが  
できたのかも  
しれない

しかし彼女は  
両親からの愛を  
確かに感じていた

だからこそ  
逃げることも  
できず

耐えることこそが  
両親への愛に  
応える行為なのだと  
信じていた



しかし  
彼女は  
知らなかった





両親の愛情は

彼女という  
人格ではなく



彼女が紡ぐ

魔術師

としての未来

のみに

注がれていた  
ということ



彼女の両親は  
魔術師の  
家系であり

本来の聖杯戦争から  
技術を  
掠め取った者達の  
二画を担っている

彼らの一族が  
入手したのは  
聖杯戦争の  
システムだけでは  
留まらず

とある魔術師の  
『蟲使い』の魔術体系を  
一部手に入れ  
それに  
独自の応用を  
加え始めた

数十年にわたる  
試行錯誤の結果――



魔術的に  
改良を加えた  
「細菌」の数々を  
使役し

まだ幼い状態の  
魔術師の身体に  
用いられ  
後天的に魔術回路を  
増幅できると考えた

元の  
「蟲使い」とは  
似て非なる技術

技術の完成後  
彼らの間に  
生まれた娘は

最初の「試体」として  
魔力回路を絶大に  
増幅させることに  
成功する



しかし

細菌の一部が暴走し  
幼い少女から  
意識を奪い去った



両親は  
魔術回路を  
増幅させた血が  
受け継がれる  
のか

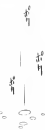
それを  
確認する  
ために  
入院させる  
ことにしたが



彼女の人格に  
ついては  
両親にとつては  
どうでもいい  
ことだった



そして  
彼女は――





ごめんなさい

ごめんなさい……

痛がつて  
ごめんなさい……



過去の記憶が  
フラッシュバックし

ちゃんと  
やりますから！

ちゃんと  
がまんしますから！

だから

誰もいない  
世界の中で  
叫び続ける

自分という  
人格が

だから  
捨てないで！

捨てないで……！

両親から  
捨てられている  
ことに気づかぬまま――

刹那

少女は  
閃光を見る



音のない世界に生まれた  
黒い霧に覆われた摩天楼  
轟々たる音

——そのサーヴァントは  
あまりにも異質だった

ト  
オ  
ウ





恐怖の塊おそりのかたまりのような  
声だが――

少女は  
恐れなかった



思い出した  
寂しさを  
埋める者が  
現れた

変化のない世界に  
変化が訪れた

ただ  
そのことが

嬉しくて――





だあれ？

わたしは

くるおかつばきです

そして  
彼女は――

この偽りの  
聖杯戦争の

最初のマスター  
として選ばれた

さて  
そろそろ  
ファルデウスが  
「宣伝」を開始する  
頃だな

もうすぐ  
土地の霊脈に  
力が満ち

私の手にも  
令呪が宿るだろう

そうなれば  
私の準備は  
完璧だ

そうね

宝具そのものと  
いえる聖遺物も  
用意できたし……

イザとなれば  
その宝具  
そのものも  
手持ちの武器として  
扱える  
でしょうしね

ああ  
そうだな  
かの始皇帝を  
呼び出すとあらば

それなりの  
敬意を示すための  
準備を  
整えねばなるまい

しかし――

そのすべては  
無用の長物と  
なりはてる

彼らに  
令呪は  
宿らず――

別のものが  
彼らの身体へと  
浮き上がる







冗談じゃない



こんな  
状態で  
……  
敵に  
襲われたら……



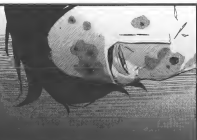
いや  
まさか……

もう誰か……

……仕掛けて……

聖杯戦争に  
彩られた  
彼の意識は

昏睡状態に落ちる  
最後の瞬間まで  
娘を思い浮かべる  
ことはなかった





今日は  
梅の  
誕生日だったな

……  
そういえば

レ  
ワ  
リ



ケーキを  
作ってあげなくちゃ

貴方

そうね







# ライダー

「彼」には  
英雄としての  
資質どころか

人格すらも存在しない

そもそも

「彼」は人間では  
ないのだから



かつて  
黒死病の風を吹かせ  
三千万の命を奪い

ときには  
スペイン風邪という名目で  
五千万の命を奪い

様々な風を起こした  
「災厄」という名の騎手



そして何よりも  
人々がその  
「災厄」にまた二三名

それこそが  
彼をライダーとして  
顕現させた最大の理由に  
なるかもしれない



現実の光景を  
夢の中に  
投影させる

それは恐らく  
彼女が無意識の内に  
開花させた魔力



彼は  
人間の感情など  
理解できない

「彼」はただ  
彼女の無意識の魔術を  
手助けしたに過ぎない

ただ  
聖杯戦争としての  
知識を  
ロボットのように  
システムの  
再現するのみだ



だが  
それ故に  
強力な力を有し

少女を  
この聖杯戦争  
最大にして  
最悪の  
ダークホースへと  
仕立て上げた



少女は踊る

少女は踊る

目覚めの時を忘れるために

少女と踊る

少女と踊る

彼女のすべてを叶えるために



この  
サーヴァントの  
存在自体に  
気づく者が  
現れるのか

偽りの聖杯戦争は  
いよいよ  
混沌の渦へと  
その座を  
投じつつあった



緑丘 椿

意識不明の少女







ACT6 ランサー



どうも  
逃げるべきなのかも  
理解できぬまま

ただ  
前へ前へと  
己の身を躍らせる

一歩踏み出すことに  
足が悲鳴をあげる

それでも  
足を止めない

身体も脳味噌も  
ブレーキを  
求めない

あと少しで  
夜の森を  
潜り抜けようとしていた  
その刹那





まったく  
よりもよって  
おまえに  
令呪が宿るなどと……

いったいなんの  
冗談だ!!










英雄を  
超える存在を  
手に入れなければ  
ならん



神と呼ばれし  
格を手に入れた者を  
喚ばねば



王と  
呼ばれる類の  
英雄どもに  
勝つことはできん



なれば……  
英雄の起源より  
さらに過去――



エジプトにて  
神となつた者達を  
喚び寄せるしか  
あるまい

だが  
令呪と土地の  
力だけでは

神の座に  
位置する者までは  
喚べぬ

貴様は  
そのための  
触媒なのだぞ！

神を喚ぶ  
触媒となる榮譽を  
何故受け入れん！？

恩を仇で  
返しおつて！

こちらも  
いくつか反則を  
せねばならんのだ



もうよい

スベアは  
何体か  
用意してある……

令呪だけは  
返して貰うが

その後は死ね

窯に放り込んで  
新たなモルモットの  
素体としてくれる

A……

実際

「逃亡者」にとって

令呪など

どうでもよい

存在だった

彼は

聖杯戦争の意味も

名前すらも

知らなかったのだから

——  
生きる

——  
生きる

ただ彼は

三個の生命として

身体の内より

湧き上がる本能に

従ったただけなのだ

——  
生きる

そして

その衝動は

この期に及んでも

三滴たりとも

失われてはいなかった

——  
生きる

彼は

徐々に動かなくなる

身体の中で

——  
生きる

と

ただそれだけを

意識する

「死にたくない」  
ではない

「生きたい」  
とも少し異なる

願望ではなく  
純粋な本能として

ただ

と願う

[illegible]

——生きる！

スカーフィールドの  
地に住まう  
ありとあらゆる  
生き物の中で

もつとも  
強くその意思を  
叫びあげた



故に  
気づかなかった

その叫び声の意味を  
魔術師は理解できず

彼にしか紡げぬ

その叫びこそが

彼にとつての  
魔術であり

召喚の儀式  
であったのだと



魔術師は  
知らなかったのだ

つい先刻

五体目のサーヴァントが  
北部の溪谷にて  
召喚され

ズ.....!!

偽りの聖杯は 多少強引にでも

六体目の サーヴァントの顕現を

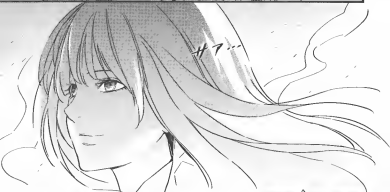
望んでいたということに











現れた英雄は

あまりにも美しかった

君が……  
僕を呼び出した  
マスターかい？

逃亡者は——確信する

目の前の者は  
敵ではない

ただ  
それだけが  
絶対の事実であると

英霊は  
逃亡者と同じ  
目線の高さまで  
跪き



魔術師には  
理解できない  
言葉を口にする



その言葉を聞き

逃亡者は  
静かに言葉を返す




何を  
している  
...?

???



ア... ..





ありがとう

契約は成立した



長年の友に  
語るような  
言葉に――

逃亡者は  
心から安堵する

生きることを許された

――そんな感覚が彼を包みこむ

もう逃げる必要は  
なくなつたのだと  
確信し――

彼は  
ようやく  
全身の力を抜いた

ばか……  
な……

馬鹿な!

そんな話があるか!

獣がッ!

そんな……

さしたる能もない  
合成獣が  
マスターだとッ!!

ふざけるな!

その銃を  
下ろしてください

マスターは  
貴方に  
殺意を抱いていない

なッ……



馬鹿な！  
適当なことを……

僕には  
彼らの言葉が  
理解でき  
ますし……

マスターが貴方に  
何をされたのかも  
状況を見れば  
想像はつきまです

ですが  
マスターは  
貴方に  
殺意を抱いて  
いない

……この意味が  
わかりますね

ま  
待て  
待ってくれ！

おまえも  
聖杯を  
望んでいる  
んだろう！？

そんな犬畜生を  
マスターと  
するより

私と組んだほうが  
より確実に  
聖杯へと  
近づけるぞ？

ひ……

英霊は足を止め  
振り返る

英霊が  
魔術師に向けた  
視線にこめられた

強い  
拒絶――

ひ……

あああ

ああああああああああ

あああ

何故だ！

何故だ！ 何故だ！

何故

何故

なぜ！

ハァ

何故

私ではなく！

ハァ

あんな……

あんな犬ッコロが

選ばれた！

あの英霊は……  
いったいなんだと  
いうのだ！



獣に繋がる  
英雄……？

だがあれは  
獣ですらない  
合成獣だ

たあの  
肉人形に過ぎん  
合成獣に近い  
要素を持つ  
英雄など……



くっ……  
まあいい  
なんとかして  
奴から……

いや  
他の誰でもかまわん  
令呪を奪う算段を  
始めなければ



奴らが街に入った  
隙をついて  
残りの合成獣を  
放てば

あの犬コロを  
攫うぐらいは……

それは  
困りますねえ



これ以上の  
不安定要素は  
排除して  
おきたいですよ

申し訳ない

!!



何者だ



………!!



聖杯戦争以外の  
ゴタゴタを  
起こされると  
困るですよ

協会や  
教会はともかく……

………ッ  
ファルデウス

市民団体まで  
敵に回すわけには  
いきませんからね  
公務員なもので

あ そのままで  
聞いてください

質問に  
答える気は  
ありませんし  
生かしておく  
つもりも  
ないので

首を斬らせて  
いただきます

いけませんよ  
予想外の事態が  
起こったとはいえ

なんの  
魔術加護もない  
ナイフに  
切り裂かれるようでは  
貴方の家系が  
泣きますよ

……とはいえ  
貴方  
なんて魔術師  
でしたっけ？

まあ  
答えられそうに  
ありませんし

もう  
どうでも  
いいのですが





機密情報を  
うつかり  
話しかねないので

失礼

私はお喋りな  
ものでしてね

死体相手でも  
なければ  
安心して  
話せないんですよ



まったく  
縁丘夫妻が  
いったい何を  
喚んだのかも  
気になりますが  
……

貴方もまた  
厄介なことを  
してくれた  
ものです



知らないんですか？

戦争にも  
ルールが  
あるんですよ



今しがた  
貴方の工房を  
漁らせて  
いただきましたが……

まさか英霊ではなく  
神と呼ばれる  
類の方々を  
喚ぼうとは

そりや  
システムの  
反則つてものです

我々の目的のための  
試験的な場とはいえ  
身勝手は困ります

しかし森の中で  
撮られた映像を  
見ましたが……

まさか  
彼……

いや  
彼女かも知  
れませんが  
「アレ」と  
呼びますが……

まさか  
アレが英霊として  
現れるとは

万が一  
バーサーカーの  
クラスで  
召喚されていたと  
したら

それこそ  
貴方の  
望んだように

神に手が届く  
力の顕現を  
許してしまっ  
たとろでしたからねえ





まあ  
システマ的に  
それは不可能……  
のはずですが

何しろ  
イレギマラー  
だらけなもので  
こちらにも  
確証が持てない  
のですよ



それこそ  
私の知らない  
ところで

何かとんでも  
ないものが  
召喚されている  
かもしれませんし



いや 貴方の  
ペットが喚んだ  
あれも  
十分とんでもない  
んですよう？

そもそも  
アレは本来  
英雄というよりも……



神が使用した  
宝具そのもの  
というべき存在  
なんですからねえ

遥か太古――

神の泥人形として  
地上に  
落とされた彼は  
男か女かの  
性別すらなく  
妖怪じみた  
泥人形として  
森の中に  
顕現した

人間としての  
知性もなく  
ただ森の獣と  
戯れ続ける  
泥人形

しかしながら  
その力は  
人智を超えており

一度怒りを解き放てば  
当時国を治めていた  
とある英雄の力を  
上回るとすら噂された

当の王は  
それを鼻で  
笑い飛ばし

「獣と力比べ  
などできるか」

と眼中にも  
入れなかった

だが――  
聖娼として  
名高い娘が  
その獣と  
出会った  
ことにより

すべての運命は  
流転する

性別すらなかった  
泥の塊は  
男女の垣根を  
越えた  
その女の美しさに

一目で心を奪われたのだ

六日七晩共に  
過すうちに  
泥人形は徐々に  
己の姿を人間へと  
近づけていった

聖娼としての  
美しさを模倣する  
人間を知らぬ泥の獣

矛盾した美を  
己の身に宿らせたとき  
泥人形は  
多くの力を失い、

入れ替わりに  
人としての  
理性と知恵を手に入れた

そして  
人間の姿と知恵を  
手に入れた人形は  
偉大なる王の前に立つ

天地を  
揺るがさんとした  
死闘の末  
彼らはその力を認め合い

唯一無二の朋友として  
苦楽を共有する  
存在となったのである

しかし……  
安心したよ

ス……

ス……

この世のすべてが  
ウルクの街のようなものに  
埋め尽くされていると  
思ったけれど

世界は相変わらず  
美しいらしい

そのとき

彼のスキルである  
最高クラスの

「気配感知」の力が

遙か北に  
とても懐かしい  
気配を捉えた

まさか

まさか……  
君なのか？



はは……

あの広場での  
決闘の続きも……  
それはそれで  
楽しそうだね

おはよう



↑……



英雄 エルキドゥ



彼の歌声は  
大地そのものを  
震わせ

闘争の開始を告げる  
美しき大地の鳴動  
となつて

スノーワールド  
全土へと  
響き渡つた

偽りの台座に  
集まつた  
魔術師と英霊達

これが  
偽りの聖杯戦争  
であると  
知りながら

彼らはそれでも  
台座の上で  
踊り続ける

彼ら自身の信念を  
通すために――

# 彼らだけの聖杯戦争

その火蓋は

確かに切つて落とされた



夜空の色に  
染まった

広い

真球の部屋の  
中央に

木製の椅子が  
浮かんでいる

下手な人間が  
その椅子に座れば

椅子の存在感に  
完全に呑み込まれるだろう

そう思わせる程の  
椅子であったが

その椅子を超える  
荘厳な空気を  
纏った男が

背もたれを  
強く軋ませた

むう……

魔道元帥

キシュア・ゼルレツチ・  
シュバインオーグ







貴公は  
どう思う

そろそろ  
挨拶の一つでも  
する頃だぞ



そこからでは  
通信料も  
馬鹿にはなるまい

死徒  
コーバック・  
アルカトラス



これは失敬  
気付いて  
いらしたか

もう少し  
タイミンクを  
見計らってから  
ベルを鳴らすつもり  
だったんだけどな

ボクだと  
解つて  
声をかけたのかい？

独り言の多い  
年寄りだとも  
思っていたのか？

ここを  
どこだと  
思っている

入り込める者は  
数える程しか  
おらん

ああ  
ボクが来たのも  
その件さ

なに？

して  
何用だ？

茶飲み話なら  
別の時間を  
あたれ

ここは  
生憎と  
面倒な仕事を  
抱えていてな

スノーワールドの  
事件を一つ選んで  
観測するつもりなら  
魔術師達じゃない

「乱入者」を基準に  
世界を選定した方がいい



星の動かし方に  
迷いが無いな

未来への  
道筋は  
迷宮のような  
ものだからね

ボクの  
得意分野さ



もつとも  
ボクの迷宮と  
違つて

何を  
【到達点】とするかは  
人それぞれだけどね



あとは……  
そう  
眼鏡を  
かけていた筈だ

開かれた頁には  
髪を金髪に  
染めた  
東洋人と思しき  
少女――



……  
それは  
重要なのか？



さあ？  
辿り着く結果から  
逆算しただけ  
だからね

意味の  
あるなしは  
後から  
考えればいい

ふむ

しかし貴様が  
わざわざ浮世に  
絡んでくるとはな

退屈を持て余して  
いるのなら  
街に出ろ

読書家ならば  
鼻<sup>ハナ</sup>屑<sup>ケツ</sup>にしている  
喫茶店の  
一つもあろう？

そこで存分に  
暇を潰せば  
よからうに

いや……  
暇つぶし……  
というわけでも  
ないんだ

今回の件は  
ボクにも  
多少関わりがある

……  
なるほどな

あやつが  
考えそうな事だ

少しばかり

筋が通ったが……

だからこそ

手は出せん

アレは

闖入者が

多ければ多いほど

喜ぶ手合いの魔物だ

今回の

聖杯戦争も部外者を

買かせて貰うとしよう

ああ

そうだね

下手に貴方が

干渉すると

世界が

確定してしまう

彼女の宇宙が

単なる

偽典となるか

あるいは

その逆か

期待を持って  
見届けようじゃないか





解説を書くべしと言われて引き受けたのはいいものの、私の『解説』は恐らく殆どが偽りになります。

私は自分の書いた小説の事ならからうじて自己満足という形で解説できますが、この森井さんが描き綴った『まじ』の漫画を全て理解し、解説する事など不可能です。何故なら、この作品は原作通りでありながらも、巧みな演出によって私の手を飛び越えた作品へと生まれ変わっているからです。

冷静に客観視しようとしても、流麗な演出や作画の妙を前に、私は単なる一読者となってしまいました。なので、『解説』ではなく『感想』ならば真実が書けると思うので、ストレートに言わせて頂きます。

……凄かったです。

ただ、ひたすらに森井しづきさんという漫画家の技量に驚かされました。

同日発売が三田誠さんの手による本格魔術奇譚『ロード・エルメロイⅡ世の事件簿』第一巻。そして『Fate/Apocrypha』最終巻という事もあり、「果たして、私の『strange Fake』はあのパワー溢れる二つと対抗できるのだろうか？」と不安にもなりました。

しかし、完成した原稿を読んでも———なんという事でしよう。森井しづきさんという匠の手によって、この漫画版『strange Fake』はパワー漲る作品へと生まれ変わっていたのです。

これでダメなら、それはもう私の原作が悪かったというだけの話だと納得し———改めて怖くなってきまして、まあそれはそれという事で。

森井さんの漫画は。小説と同じストーリーを辿りながら、作品としては違う次元のものとなっております。玉座ごと召喚され、それに違和感を覚えさせぬギルガメッシュの圧倒的な存在感。

フラットと教授の豊かな表情が生み出すコミカルな空気。

聖杯の意志がアサシンを掴み取らんとする瞬間。

異質な宝具が描った署長室の圧迫感。

連続見開きによって描かれた無人の街に立つ鎌丘椿の孤独。

さらには召喚シーンの貫注な見開きや、コマとコマの間を彷徨うライダーの影！

そして、歌声を響かせるエルキドゥの美しさなど――

文章で表現しきれなかったものを堂々と描ききる一撃、あるいは思いも寄らない所から放たれた一撃が次々と私の脳髓にクリンヒットに突き刺さります。

小説と漫画では表現できるものが違いますが、その『小説――少なくとも私の文章力では表現できない演出』を、森井さんは全力投球で物語に組み込んで下さいました。

これは私と森井さんの勝負でもあります。

『Full Strength Fight』というこの企画は、私が投げた小説ならではの表現を森井さんが漫画ならではの表現で投げ返し、私はそのボールの衝撃に怖れおののきつつも、また全力でボールを投げ――という事の繰り返しになる事でしょう。

これは大変な仕事だぞと思いつつ、私は、森井さんの剛速球や魔球を受けるのが楽しみで仕方ありません。私の綴った物語は<sup>2000</sup>の偽物かもしれませんが、そこから生まれたこの漫画は粉れもない本物です。

それを踏まえた上で、どうぞこゆるりと森井さんの描く<sup>2000</sup>世界を堪能して下さいませ！

『あとがきを騙った宣伝と謝辞』

なんと2015年1月10日に、電撃文庫さんより本作の小説版1巻が発売となっております！（冬コミ先行販売以外の一般流通の場合、恐らく同日発売という形になっているかと思われます）

このコミックス1巻で描かれたシーンに加え、後半は更にその続きが！

具体的には、聖杯戦争の開幕を告げる「初戦」と、更なる新キャラクターの登場、『教会』の動きやグレートビッグベン☆ロンドンスターのその後、そして、このコミックスの最後に描かれていた、あの謎の眼鏡っ娘が街にやってくるシーンなど、諸々含めて100頁前後プラスさせて頂いております！

また、「そもそも『Fate』って何？」という読者の皆様がおられましたら、是非これを機会に『Fate』本編の物語と、それに付随する壮大な型月ワールドをお楽しみ下さいませ！

さらに『Fate/EXTRA』や『Fate/Zero』を初めとするスピンオフ作品も満載です！  
そうした作品群と共に、無限に広がるFateワールドを盛り上げる事に協力できたのなら幸いです。

最後に、謝辞となりますが――まず始めに、『Fate』という素晴らしい作品世界を造り出し、本作についても快く様々な設定を監修して下さいました奈須きのこさん。並びに、武内崇さんを初めとするTMの皆さん。

小説版と漫画版の同時展開という流れに協力して下さいました電撃文庫編集部の皆さん。  
『Fate』のスピンオフ作品を通じて色々とお世話になりました、虚淵玄さん、東出祐一郎さん、桜井光さん、磨神映一郎さん、三田誠さんを初めとする関係者の皆様。

とあるシーンの作画にて御助言を頂きました広江礼威さん。

とあるサーヴァントの設定考証をして頂きました、チーム・パレルロールさん。

そして何より、素晴らしい筆致と演出でこの漫画を執筆して下さいました森井しづきさんと、この本を手にとって下さった全ての読者の皆さんへ。

本当にありがとうございました！

今後とも、『Fate/strange Fake』を宜しくお願い致します！

2014年11月 『氷室の天地』4巻の表紙カバー下の漫画を読んで「!?」となりながら。成田良悟









TYPE-MOON BOOK 3

# Fate/Docryphe

著者：東出祐一郎 イラストレーター：近衛乙嗣

# ファイアー・ガール

著者：星空めてお イラストレーター：BUNBUN

# ロード・ エルメロイ Ⅱ世の 事件簿

著者：三田誠 イラストレーター：飯本みねぢ

Tm

TYPE-MOON

www.type-moon.com

©TYPE-MOON

最新の魔法使いの物語、装いも新たに再装填――！

その魔法は月を超えて。

# 魔法使いの夜

WITCH OF THE HOLY NIGHT

価格：8,400円（税込）・日本語版 Windows® XP/Vista/7対応・DVD一枚

# フェイト／ストレンジ フェイク 1

2014年12月28日 初版発行

著者 ————— 森井しづき  
原作 ————— 成田良悟 / TYPE-MOON  
発行者 ————— 竹内友崇  
発行所 ————— TYPE-MOON  
<http://www.typemoon.com/>  
FAX : 03-3865-6166 MAIL : info@typemoon.com

装丁 ————— WINFANWORKS  
印刷 ————— 新星社西川印刷株式会社

©成田良悟 / TYPE-MOON

著丁、装丁本の受渡については、FAXまたはE-mailで受け付けております。  
上記FAX番号、またはE-mailアドレスまでお問い合わせください。

印刷総数、複製を禁ず  
Printed in Japan.

この作品はフィクションであり、実際の人物・団体・団体とは一切関係ありません。